

高梁市成羽美術館（同市成羽町下原）で、岡山県立大（総社市窪木）の学生が手掛けたミュージアムグッズの販売が始まった。館内で展示している約2億3千万年前の化石を題材にした全25種類で、国内有数の出土地でもある成羽町地域のPRに役買っている。

デザイン学部造形デザイン学科の3、4年生12人が製作。成

## 県立大生が考案

羽町地域で発掘された化石をあらわにしたTシャツやポストカード、うちわなどで、7月中旬から館内のショップで扱っている。

放射状の筋が特徴の二枚貝「モノチヌ・オコチカ」をモチーフにしたTシャツは、化石を額に載せた猫の顔を胸元にプリント。シダの一種「ハウスマンニア・デントータ」の破れ傘の

# 化石あしらい新グッズ

ような葉の模様を一つずつ手彫りした湯飲み、イチヨウの仲間「バイエラ・エレガンス」の葉脈などを丁寧に描いたポストカードと、意匠を凝らしたグッズがそろう。

同美術館は施設の魅力発信を目的に2014年から毎年、県立大とグッズを共同開発している。学生は2月から美術館で化石をスケッチし、学芸員のアドバイスを受けながら製作を進めた。

Tシャツとポストカードを作った3年須増花子さん(21)は「グッズを通して化石の独特な形や模様の美しさに目を向けてほしい」と話している。

化石をテーマにしたミュージアムグッズと、製作を担当した岡山県立大生



(C) 山陽新聞社 無断複製・転載を禁じます。